



企業紹介

交通事業を主軸に、多彩な事業を展開し
地域社会の信頼と期待に応える



株式会社 キタモリ

レッカー業で創業

同社は、現在、貸切バスやタクシーなどの交通事業や交通事故現場でのレッカー車による車輛の移動業務といった主力事業に加えて、建設工事、福祉介護、人材派遣、警備業務など手広

く事業を展開している。広範囲な事業を行う同社は、地元企業でクレーン車の運転に携わっていた現社長の北森浩貴氏が、1996年に事故車や故障車の移動を行う「北森レッカーサービス」を創業したので始まりである。

貸切バス、タクシー、レッカーなど交通事業を核に、建設業、訪問介護、斎場管理など地域のニーズに応じて事業を拡大する株式会社キタモリ。その秘訣を伺った。



代表取締役

北森 浩貴氏

【企業概要】

本社	三重県伊賀市古郡546-1 TEL:0595-38-1524 FAX:0595-36-9133
創業	1996年(平成8年)9月
設立	1999年(平成11年)4月
資本金	5,000万円
売上高	3億4,671万円(2009年9月期)
従業員数	60名(パート含む)(2009年3月現在)
事業内容	一般貸切旅客自動車運送事業、一般貨物自動車運送事業、一般乗用旅客自動車運送事業、クレーン・レッカー事業、建築・土木・道路の保全補修・維持管理業務、訪問介護事業、民間救急サービス事業、航空事業、自動車修理事業、人材派遣業務、産業廃棄物(医療・一般)の収集運搬、建物清掃
URL	http://www.ict.ne.jp/~kitamori/



交通事故現場での作業



地域の防災訓練に率先して参加



救急ヘリでの患者搬送を支援(上) 介護車両(下)



患者輸送車(上)

創業当初の依頼は月10件程度と厳しかったが、「レッカーの出勤要請にいつでも対応できるように、営業はもちろん家族で食事に出かける時も自分だけはレッカー車で移動していた」と北森社長は当時を振り返る。「持ち込まれた仕事は断らない」という姿勢が認められ、警察やディーラーから信頼を徐々に獲得していった。

また、ちょうどその頃、保険会社が自動車保険のロードサービスの一つとしてレッカー移動サービスを付与するようになり、受注件数は一気に5〜6倍に増加、99年に「有限会社北森レッカーサービス」を設立し、従業員も2名雇った。

ニーズに応じて事業拡大

交通事故の現場では、レッカー作業のほか、けが人の緊急搬送や破損した道路、建物、器物などの迅速な復旧が必要となる。

同社は、これら一連のニーズに応えようと、とび、土木工事など「だ」と語る。たとえばレッカー作業で他社が出動しても、道路の復旧作業やけが人の搬送は出来ない。急を要する複雑な作業を全て請け負うことができる同社は、便利で任せられる存在となっていく。

07年、株式会社組織変更し「株式会社キタモリ」とした。商号に「三重」や「伊賀」などの地名を入れることも検討したが、これまでに以上に顧客からの信頼に応え、責任を持つて事業に取り組みむ証として、敢えて「キタモリ」という自分の名前を残した。

誠意と真心で応える

同社では、20〜70歳までの従業員が技能や体力に応じた仕事をを行っている。バスとレッカー車の運転など、仕事を兼務する従業員も多い。北森社長が常に強調していることは、「お客様の立場になって誠意と真心で応えること」である。乗客には高齢者や障害者、

ど必要な建設業の許可を相次ぎ取得し、ガードレールやカーブミラー、交通標識の復旧、倒木処理なども手掛けていった。

さらに、病院への出入りを重ねるうちに、深夜に救急車で搬送されたが入院せずに済んだ人の帰宅手段や転院移送など、緊急を要しない人の搬送を請け負うところがないという声を聞き、患者搬送限定のタクシー許可を受けた。現在は、伊賀市や名張市から「患者等搬送業務認定事業所(民間救急)」の認定を受け、救急車の運転も行っている。

また、寝台車(霊柩車)による搬送も受けるようになったのをきっかけに、斎場への送迎など貸切バスの運行、さらには斎場管理も請け負うようになった。

貸切バスからヘリコプターまで

同社は経営方針として、「幅広い視野に立ち、長期的・多角的な発想とチャレンジ精神で時代を先取りする」「他社に先ん

患者の方が多いことから、特に運転手には、「安全・安心な運行」を徹底している。

また、レッカー作業や救急車輻の出動は年中無休24時間体制が要求される。

このため、「従業員には民間企業でありながら、公共に近い仕事をしているという意識が強い」と北森社長は話す。

そして、現在も北森社長がほとんどの業務を率先垂範する姿勢が、何よりも従業員に良い刺激を与えている。

人命尊重と地域社会への貢献

事故や災害の現場に立会い、また患者輸送、福祉介護、霊柩運送などに携わってきたことで、北森社長の人命尊重や地域社会への想いは人一倍強い。

08年に、県内では初めて観光バス1台にAED(突然の心臓停止などに際して電気ショックを与えて心臓を再び動かすための機器)を配備した。乗客に高齢者が多いことや輸送実績

ずる危険を冒せ」を掲げている。「ニーズがあれば、売上が少なく、手間がかかり他社がやらないことでも、とりあえずやってみることが大切だ」と北森社長は語る。

貸切バスは、その後、地域のニーズを受けて、スクールバスや介護施設の利用者の送迎、観光バスの運行などへ拡大していった。患者搬送では、伊賀・名張市内の自社用地にヘリポートの許可を得て、ヘリコプターによる患者搬送も行う。

「新しい事業は手本がないため、手探りでやってきた。色々な壁があったが、辛いと思ったことは一度もなかった」と振り返る。

キタモリに任せれば安心

「創業当時から、持ち込まれた仕事は断らないという姿勢で取り組んでおり、キタモリに任せれば安心と評価してくれるようになった」と北森社長。

また、「自社でやれることは、外注しないという方針で事業を拡げてきたことが現在の強みを考慮すると、年に1〜2回発生しても不思議ではないというのがきっかけとなった。将来的には保有する全てのバスに配備したいと考えている。

また、地域の防災、消防訓練にも率先して参加し、08に災害時の緊急車両の円滑な運行のため車両排除やけが人の搬送などを行う出動協定を名張市と締結した。

09年には、名張市に福祉目的の施設を新設し、家庭環境や保護者の事情で養育を受けられない児童を預かる準備を始めている。

今後について、「各業務のサービスレベルを強化し、事業エリアを拡げたい」と北森社長。

地域社会への貢献を念頭に、業務の拡大を進めてきた同社の一層の活躍に期待したい。

文〓地域調査部 津谷 昭彦